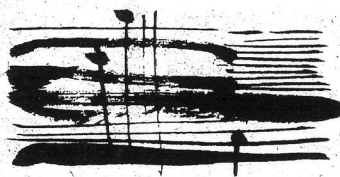


展 望



山元 眞

リオの伝説のスピーチ

今から十一年前の一九九二年六月、ブラジルのリオデジャネイロで国連の地球環境サミットが開かれた。この会議にカナダ人の十二歳の少女が招かれ、世界から集まったリーダーたちの前でわずか六分間のスピーチをした。このスピーチはサミットの参加者に深い感動を与え、世界中に伝わった。「リオの伝説のスピーチ」と呼ばれた彼女の言葉は「あなたが世界を変える日」という題名でことしの七月に出版された。

「どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのは、もうやめてください」。この子の名前はセヴァン・カリススズキさんという。今も環境問題に取り組んでいる(関連6面)。

子どもたちの答え

子どもと共にささげるミサで子どもたちに尋ねてみた。「こわれたら直すことのできないものは何だろう?」

すぐに手が挙がった。「にんげん」。「ほか

には?」別の男の子がすぐに答えた。「いのち」。「まだ、あるかな?」三人目の子どもは「かぞく」と答えた。三人ともいたずら好きな元気な子どもたちである。おそらく、自然の動物や植物、空気や水という答えが出る予想していたが、あまりにも直接的な答えを聞き、驚きと感動を覚えた。聖堂に感動の雰囲気がかかった。それから、子どもたちにカ

リススズキさんの話をした。

完成に向かう世界

神は天地万物を創造し、それを人間の手に委ねた。すべて形のあるものはいつの日か壊れるものである。しかし、世界は破滅に向かうのではなく、完成に向かうもの。それを人間が壊し続けている。自然環境だけではなく、子どもたちが答えたように、今では、人間さえも、いのちさ

ないわけではない。救い主誕生の前の時代に帰るのではない。待降節は主の再臨を待つ季節。世界の終わりの救いの完成を待ち望む季節。タレントのたとえ話(マタイ福音書二十五章)にあるように、その時、私たちは主に預かったタレントで「稼いだ分をお返ししなければならぬ。預かったタレントは、銀行に預けるのではなく、世界の完成のために使わなければならない。行動しなければならぬ。カ

完成に向かうはずなのに

えも、そして人間と命の結び付きである家族さえも壊れている。壊し続けている。ここから救われなければならぬ。私たちは、命の破壊からの救いを求めている。

待降節

ことしも待降節が始まった。言葉の上では、待降節は救い主を待ち望む季節であるが、救いはまだ来てい

ない。リススズキさんは六分間のメッセージを次の言葉で結んでいる。「おききますが、私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか。父はいつも私に不言実行、つまり、なにをいいかではなく、なにをするかで、その人の値うちが決まる、といいます。しかしあなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。あなたたちはいつも私たちを愛しているといひます。しかし、い

せてください。もし、そのことがほんとうなら、どうか、ほんとうだということを行動でしめしてください」。

行動で示した神、イエス

天地万物を創(つく)られた神は、人々と世界を、その破壊から救うために二千年前に救い主を遣わされた。イエスは父である神の愛を行動によって私たちを示してくださった。私たちは救われているのである。神の愛によって。私たちは、まず、自分たちが救われていることに気づき、そして、救われた者として、他の救いに協力、参与しなければならぬ。教会に集う人たちは、それに気づき、行動を起こすはず。最近、来日五十周年を迎えた司祭が次のように言った。「福音を伝えなければ教会ではない。ただきれいな儀式をし、勧善懲惡の教えはほかにある。教会の独自性は福音を伝え、行動することにある」と。

(福岡教区司祭)